熊大教育工学センター紀要,
第3号, 97-115, 1986

いじめの社会心理学的研究

鈴木康平* ・ 佐藤静一*
篠原弘章* ・ 吉田道雄**

Social Psychological Study on Bullying in School

Kouhei SUZUKI, Seiichi SATO, Hirofumi SHINOHARA
and Michio YOSHIDA

(Received October 1, 1985)

Recently, bullying in school has been brought into focus because of its wide spread in elementary and junior high schools in this country. In the worst case, the intimidated child was forced to commit suicide (7 cases last year in all). So we planned the social phychological study in order to find out the background of such a bullying in school.

Firstly we administered the questionnaire to boy- and girl-students, which contained the question-items concerning the experience of and their feeling toward, bullying or being bullied in school. We could find many various cases reported in the questionnaires. Secondly, we checked all the reports intimidating in school which were found in the various newspapers in Japan, especially during 1984-1985. And we could categorize these behavior-patterns into four different types of group structure. Lastly, from the view point of group dynamics, we asked the university students to report their own experiences of bullying or being bullied in school on their younger days.

We could get much information concerning bullying or intimidating in school and find the necessity of creating much more attentive teaching which will have the children much more considerate of the others.

はじめに

日本社会心理学会は毎年1回全国のどこかの地において公開シンポジウムを行なっているが，本年(1985年)は熊本大学を担当校として6月29日，熊本市において「いじめの社会心理学」をテーマに開催された。本稿はそのうちの，特に熊本大学の標記4名による報告のまとめである。ちなみに，上記シンポジウムでは，鈴木が司会をつとめ，佐藤・篠原・吉田のほかに，佐賀大学の原岡一馬氏，京都大学の木下冨雄氏が，それぞれ「教育現場におけるいじめの原因と対策」「社会現象としてのいじめ」と題して講じた。両氏には，当番校のわれわれの研究に加えて，実に有益な，示唆にあふれる話題を提供していただいた。本稿ではその性質上，両氏の話題内容に言及するゆとりをもたないが，シンポジウムそのものを大層深みのある，かつ意義深いものにしていただいた。その御努力，お力添えは実に大であった。記してここに感謝の意を表すものである。

さて，“「いじめで7人が自殺，仕返し殺人・放火も一警視庁まとめ，531件，1920人を補導一昨年全国の小・中・高校」これは本年4月19日付け朝日新聞第一面の見出しである。「国会で『いじめの問題』が議論されたことなどを受け，同庁が昨年の刑法犯事件を洗い直して初めてまとめた」ものと同紙で報ぜられた。

この記事と相前後して，このところ「いじめ」の問題がひときわ大きくとりあげられ，注目されてきている。学校をはじめ，行政関係諸機関など，本腰を入れてこの問題にとり組み始めた様子が随所に見

* 心理学科
** 教育工学センター

られるようになった。

社会現象や教育場面での人間関係の心理の追究に力を注いでいる社会心理学会の一員として，われわれもこの問題を座視することはできない。無論，この問題に接近していくのに，ひとり社会心理学のみが有効であるなどといおうとしているのではない。人間・教育・社会のすべてにかかわることがらとして，実に様々な面からのアプローチが可能であるし，また，その努力がなされなければならないであろう。しかし，今回ここでは，われわれは社会心理学の分野から，このテーマにいかに独自にせまりうるかを試みてみようと思う。”これが，熊本でわれわれが当番校として開いたシンポジウムを「いじめの社会心理学」とした趣旨である。

われわれ4名は，まずいじめの心理の実態を把握することが何にもまして要請されるとの合意点から出発した。そこでまず小学生，中学生を対象とする質問紙調査用紙を作成，実施することにした。被調査者数，学校数等具体的な内訳は後にのべる。

（シンポジウムでは，これをまとめて，吉田が4名を代表して「いじめの心理」として口頭発表した。本稿では，「Ⅰ．いじめ，いじめられの心理」として，鈴木と吉田が執筆する。）

一方，「いじめの集団構造」をさぐる必要があることから，篠原が，過去1年半にわたって，全国紙，地方紙等に報道されたいじめの具体的な記事を中心に総点検を行ない，いじめの集団構造の類型化を試みる（シンポジウムでは「いじめの集団構造」と題して，篠原が口頭発表した。本稿では，Ⅱ．にあたる）。

さらに，集団力学の観点からいじめを分析することにし，佐藤が大学生を対象に実施した，自由記述による追想形式の質問紙調査の結果をまとめる。本稿のⅢ．に該当する（シンポジウムでは，「集団力学からみたいじめ」と題して，佐藤が口頭発表した）。

なお，上記の様にⅠ－Ⅲは，独自の観点，方法を用いていじめの問題に接近しているため，本稿での記述にあるいは統一を欠く場合もあるかと思われる。ここでは，それぞれの独自性を生かし，内容の吟味に重点をおきたいので，この点については御寛容ねがいたい。

（鈴木康平）

Ⅰ．いじめ，いじめられの心理
― 小・中学生の調査より―

問題

前述のように，いじめについて研究するには，なによりもまず，その実態を把握することが必要であるとの観点にたって，小・中学生のいじめについての調査をし，その様子，心理を把握することを目的とする。

方法

質問紙調査による。具体的に作成した調査用紙は，本章末尾に掲載する。

対象は，熊本市内小学校3校（5クラス），中学校4校（4クラス）である。対象児童・生徒数は表1に示す。

表1　調査対象児童・生徒・学生

熊本市内	小学校 3校(5クラス)	中学校 4校(4クラス)	
小学校	5年生 131名	(男子 69名	女子 62名)
	6年生 83名	(男子 43名	女子 40名)
	合　計 214名	112名	102名
中学校	1年生 42名	(男子 20名	女子 22名)
	2年生 81名	(男子 46名	女子 35名)
	3年生 41名	(男子 21名	女子 20名)
	合　計 164名	87名	77名

結果と考察

1．きょうだい数　Face Sheet の質問として，きょうだい数を聞いた。一般によくいわれているとおり，きょうだい数は少ないことがわかる。家庭の中で，ヨコとタテの両方の性質をおびている人間関係が体験されるきょうだいが，その数において少ないというのは，いわゆる切磋琢磨の機会に恵まれず，いきおい家庭の中で frustration tolerance を強める機会や相手の立場に立って物事を考える機会がとぼしくなるとはいえないであろうか。もちろん，これがただちにいじめに直結するとは断じがたい。

表2　きょうだいの数

	小学校 全体	小学校 男	小学校 女	中学校 全体	中学校 男	中学校 女
1．兄弟はいない	6.7	7.1	4.9	10.4	13.8	6.2
2．　1人	49.1	48.2	50.0	56.1	51.7	61.4
2人	29.4	28.6	30.4	27.4	29.9	24.7
3人	13.6	12.8	14.3	5.5	3.5	7.8

＊数値は回答の％（以下の表についても同様）

2．「いじめ」の概念

表3を参照されたい。いじめがどんなことかについて，自由記述形式で回答を得たところを，カテゴライズしてまとめ，上位5位までをとったものである。

（以下，自由記述の結果をカテゴライズしたものは，原則として上位5位までをまとめて，表に示す。したがって，表にはあがっていない少数意見があることを指摘しておきたい。）

ここで驚くことに，小学生においては，期せずして男女ともに同一の内容が同一順位にあがっていることである。仲間はずれと暴力が1，2位を占めているが，これらは集団からの疎外と，苦痛のおしつけであり，前者は「仲間はずれ」のほかに「無視する」が該当し，後者は「暴力」を身体的苦痛とすれば，「悪口をいう」「いやがらせをする」は精神的苦痛に該当しよう。中学生では男女がやや趣を異にするが，男子で小学生に5位までにあがっていなかったものに「傷つくことをいう」があり，同じく女子では，「物をかくす（壊す）」がある。

3．「いじめ」の心理

（1）**いじめの経験**　小学生は男女ともいじめの経験は7割以上があるとこたえている。中学生は5割強が経験ありとしている。いじめのとらえ方によるから，この数値だけでただちにいじめは小学生のほうが中学生より多いとは即断できないが，実に多くの子どもたちが少なくとも主観的にはいじめた経験があると認識していることになる。

（2）**いじめの対象**　いじめの相手は，「おなじクラスの友達」が圧倒的に多い（表5）。次の「いじめる時の仲間」の回答と考えあわせると，学級，学校がいじめの field になっていることを予想させる。

（3）**いじめる時の仲間**　表6から，いじめる時には，仲間といっしょ，とりわけおなじクラスの仲間とやっていることが多い。仲間というのは，いわば

表3　いじめの概念

小学校男子	①仲間はずれ②暴力③悪口をいう④無視する⑤いやがらせをする
女子	①仲間はずれ②暴力③悪口をいう④無視する⑤いやがらせをする
中学校男子	①暴力②仲間はずれ③無視する④傷つくことをいう⑤いやがらせをする
女子	①無視する②仲間はずれ③暴力④悪口をいう⑤物をかくす（壊す）

＊自由記述は上位5位まで

表4　いじめの経験

	小学校			中学校		
	全体	男	女	全体	男	女
1．いじめたことがある	74.3	(76.8,	71.6)	53.7	(54.0,	53.3)
2．いじめたことがない	24.8	(22.3,	27.5)	45.7	(44.8,	46.8)

＊無答の数値・%は省略（以下の表についても同様）

表5　いじめの対象＊

	小学校			中学校		
	全体	男	女	全体	男	女
1．おなじクラスの友達	57.8	(53.6,	62.5)	79.2	(76.8,	79.7)
2．おなじ学年の友達	11.9	(15.5,	7.9)	17.3	(17.4,	17.2)
3．上級生	6.5	(9.3,	3.4)	2.3	(4.3,	0.0)
4．下級生	11.9	(11.3,	12.5)	5.3	(4.3,	6.2)
5．近所の仲間（おなじ年）	8.6	(12.4,	4.5)	1.5	(1.4,	1.6)
6．近所の仲間（年上）	2.2	(3.1,	1.1)	1.5	(2.9,	0.0)
7．近所の仲間（年下）	10.8	(8.2,	13.6)	1.5	(1.4,	1.6)
8．その他	4.9	(7.2,	2.3)	3.8	(2.9,	4.7)

＊表5から表17まで（表13をのぞく）「いじめたことあり」と「いじめを見たことあり」の者（小学校185名，男子97，女子88，中学校133名，男子69，女子64）の回答

別の角度からみれば，仲良しである．仲良しが別の友達をいじめる，これは一見なんでもない，いじめにはつきものの現象のようであるが，この背景には実に重大な問題が秘められている．すなわち，集団凝集性が高まると，排他性が高まることが，往々にしてあるということである．仲間づくりの指導には十分に気をつけなければならない点である．

（4）**いじめの場所**　表7でみるとおり，学校，教室が圧倒的に多い．教室や運動場も学校に含まれるが，ここでは子どもたちが書いた項目（ことば）をほとんどそのまま採用して分類した．いずれにしても，いじめの場所としては学校内が圧倒的に多い．

（5）**いじめの時**　これはいじめの場所に密接に関連しているが，小・中学生ともに，休み時間が多く，小学生では下校時が，中学生では放課後がそれに続いている．

（6）**いじめた時の気持ち**　表9をみてがく然とする気持ちにおそわれるのはわれわれのみではあるまい．小学生は男女とも，中学生は男子において，その第1位が「おもしろい（楽しい）」であり，カラカイ半分，冗談半分でいじめをしていると推測される．もっとも，相手も冗談半分でからかわれたりしてい

表6　いじめる時の仲間

	小学校			中学校		
	全体	男	女	全体	男	女
1．ひとりで	23.2	(29.9,	15.9)	12.0	(23.2,	0.0)
2．おなじクラスの友達	46.5	(38.1,	55.7)	68.4	(58.0,	79.7)
3．おなじ学年の友達	19.5	(22.7,	15.1)	20.3	(15.9,	25.0)
4．上級生	3.8	(3.1,	4.5)	1.5	(1.4,	1.6)
5．下級生	3.2	(2.1,	4.5)	0.7	(0.0,	1.6)
6．近所の仲間（おなじ年）	5.4	(6.2,	4.5)	0.7	(0.0,	1.6)
7．近所の仲間（年上）	2.2	(3.1,	1.1)	0.0	(0.0,	0.0)
8．近所の仲間（年下）	4.3	(4.1,	4.5)	0.7	(0.0,	1.6)
9．その他	2.2	(4.1,	0.0)	2.3	(2.9,	1.6)

表7　いじめの場所

小学校男子	①学校②教室③通学路④公園⑤家
女子	①教室②学校③公園④家⑤運動場
中学校男子	①教室②学校③トイレ④体育館⑤通学路‥
女子	①教室②学校③トイレ④体育館⑤先生のいない場所

（⑤以下の‥は他に同数の回答があることを示す．以下の表も同じ）

表8　いじめの時

	小学校			中学校		
	全体	男	女	全体	男	女
1．学校にいく途中	3.2	(1.0,	5.7)	2.3	(4.4,	0.0)
2．休み時間	43.8	(38.1,	50.0)	63.9	(71.0,	56.3)
3．放課後	8.7	(7.2,	10.2)	24.8	(18.8,	31.3)
4．学校から帰る途中	21.6	(21.7,	21.6)	10.5	(13.0,	7.8)
5．家の近く	17.8	(17.5,	18.2)	2.3	(1.5,	3.1)
6．その他	11.9	(14.4,	9.1)	12.8	(10.1,	15.6)

表9　いじめた時の気持ち

小学校男子	①おもしろい（楽しい）②いやな気持ち③ざまみろ④すかっとする⑤かわいそう
女子	①おもしろい（楽しい）②にくらしい③ざまみろ④かわいそう⑤いやな気持ち
中学校男子	①おもしろい（楽しい）②いやな気持ち③かわいそう④ざまみろ⑤すかっとする‥
女子	①いやな気持ち②おもしろい（楽しい）③相手も悪い④かわいそう⑤後悔した‥

るだけだと考えながら，一種の遊びでいじめているというのであればまだ救われる．しかし，相手が本当に困っていること，苦痛を感じていることがわかっている上に，「おもしろい」と感じるようでは，相手の痛みがわかっていないと考えざるをえない．次の問いでこれとかかわる点がでてくるのでそこで考察する．

(7)いじめられている人の気持ちの推測　表10がそれである．小学生，中学生とも「いやな気持ち」を第1位にあげている．そこで(6)のこととからみあわせて，考えてみる時，暗い気持ちになる．しかし，ただ一つの救いは次のように考える場合である．つまり，いじめるときの気持ちを聞かれたときは，冗談半分でおもしろおかしくいじめ，いじめられる方も，その冗談が分かっていたと自分なりに解釈していた．ところが「いじめられる人の気持ち」に回答する時は，自分がいじめられている身になって，回答したと考えてみる場合である．これとていいわけめいた解釈で，実際に，相手の痛みがわかりつつ，おもしろがってやったのかもしれない．質問にもう一つの工夫をこらして，今後このような点をしっかりと追究してみたい．

(8)いじめの理由　いじめの理由は表11に示される．小学生女子，中学生男女の1位，嫌い，気にいらないはまさしく情動的なものであり，カラッとしたケンカとは異なる面をもっていることをうかがわせる．「しかえし」が上位にあるのも心を暗くさせる．

(9)いじめの許容度　いじめがどの程度ゆるされるかについて聞いた結果が表12である．「絶対してはいけない」「あまりしないほうがいい」が多くをしめたのは救いであるが，極くわずかとはいえ，「理由があればいくらしてもいい」があるのはどのように考えたらよいのであろう．

(10)いじめについての両親の関与度，対応と許容度　これについては，表13～表15にまとめられている．両親がいじめを知っている程度は小学生で3割，中学生で1割程度である．ただし，両親はいじめを知れば，それをやめさせる方向での指導はしているようである．ただ，小学生の両親の中に「余り怒らなかった」「何もしない」があるのは気になるところである．

(11)いじめについての先生の関与度，対応と許容度　表16～表18にその結果を示す．両親の場合より，いじめを知っている度合がやや多いように子ども達がみているが，知らないだろうとする者も両親の場合より多くいる(両親については，知っているかどうかわからないという意味の無答が多かった)．先生の対処の仕方に小学生，中学生に応じた方法の工夫はみられるが，「あまり怒らなかった」「何もしな

表10　いじめられている者の気持ちの推測

小学校男子	①いやな気持ち②悲しい③くやしい④しかえししたい⑤なぜ自分だけが
女子	①いやな気持ち②悲しい③くやしい④なぜ自分だけが⑤こわい
中学校男子	①いやな気持ち②くやしい③悲しい④学校に来たくない⑤しかえししたい
女子	①いやな気持ち②悲しい③なぜ自分だけが④くやしい⑤自殺したい‥

表11　いじめの理由

小学校男子	①文句をいった②悪口をいった③なんとなく④気にいらない⑤しつこい‥
女子	①嫌い②しかえし③みんながしていた④気にいらない⑤いやがることをする
中学校男子	①気にいらない②しかえし③生意気④遊び半分⑤おとなしい‥
女子	①気にいらない②相手が悪い③しかえし④性格が悪い⑤威張っている

表12　いじめの許容度

	小学校			中学校		
	全体	男	女	全体	男	女
1．絶対にしてはいけない	41.1	(41.2,	40.9)	45.9	(43.5,	48.4)
2．あまりしないほうがいい	33.5	(30.9,	36.4)	28.6	(31.9,	25.0)
3．理由があれば少しは仕方がない	20.5	(21.7,	19.3)	21.1	(18.8,	23.4)
4．理由があればいくらしてもいい	1.1	(2.1,	0.0)	1.5	(2.9,	0.0)

表13　両親の関知度

	小学校			中学校		
	全体	男	女	全体	男	女
1．知っている	40.3	(44.2,	35.6)	18.2	(17.0,	19.5)
2．知らない	44.7	(41.9,	47.9)	68.2	(70.2,	65.9)

＊「いじめたことあり」の者(小学校 159名，男子86，女子73，中学校88名，男子47，女子41)のみによる。

表14　いじめを知ったときの両親の対応

小学校男子	①怒った②注意した③あまり怒らなかった④止めた⑤何もしない‥
女子	①ほっとけといった②止めた③相手も悪いが，するなといった④何もしない
中学校男子	①怒った②いけないといった③厳しく指導した④今度からするなといった
女子	①注意した②考え直すよういった③仲直りするよういった④やめるよういった‥

表15　両親の許容度

	小学校			中学校		
	全体	男	女	全体	男	女
1．絶対にしてはいけない	62.2	(65.0,	59.1)	64.7	(63.8,	65.6)
2．あまりしないほうがいい	23.8	(21.7,	26.1)	17.3	(17.4,	17.2)
3．理由があれば少しは仕方がない	8.1	(9.3,	6.8)	5.3	(7.3,	3.1)
4．理由があればいくらしてもいい	1.1	(2.1,	0.0)	0.0	(0.0,	0.0)

表16　先生の関知度

	小学校			中学校		
	全体	男	女	全体	男	女
1．知っている	42.2	(43.3,	40.9)	33.1	(30.4,	35.9)
2．知らない	53.0	(54.6,	51.1)	48.9	(53.6,	43.8)

表17　いじめを知ったときの先生の対応

小学校男子	①注意した②理由を聞いた③あまり怒らなかった④あやまるよういった
女子	①怒った②注意した③自分で処理しなさいといった ④いじめがあることを皆にいった⑤何もしない
中学校男子	①怒った②注意した③話をした④リーダー格を怒った
女子	①皆で話し合った②注意した③怒った④全員に説教した

表18　いじめについての先生の許容度

	小学校			中学校		
	全体	男	女	全体	男	女
1．絶対にしてはいけない	69.2	(68.8,	69.6)	79.9	(79.3,	80.5)
2．あまりしないほうがいい	18.2	(17.9,	18.6)	11.6	(12.6,	10.4)
3．理由があれば少しは仕方がない	6.5	(7.1,	5.9)	4.3	(3.5,	5.2)
4．理由があればいくらしてもいい	3.7	(5.4,	2.0)	0.6	(1.2,	0.0)

＊全員による回答

い」があるのはやはり気がかりである。先生は先生なりに，何らかの手を施したが子どもにそれが映らなかったのか，それとも別の理由があってからか，子ども達からの回答からだけでは推測しかねる。

(12)**いじめをなくす方法**　表19を参照されたい。小学生，中学生において，ともに「仲良くする」が回答の1，2位を占める。答えとしては実にもっともであるが，どのようにして「仲良くする」かが問題である。このあたりの内容については，面接調査をするなりして，一層の追究が必要である。（これらは自由記述による結果をカテゴライズしたもので，その他にもここにあがっていない，いろいろと独特な解決案もあり，それらを含めたより深い考察が必要である）

4．「いじめられ」の心理

(1)**いじめられた経験**　表20から分かるとおり，いじめられた経験も，いじめの経験とおなじくらい多い(表4を比較参照)。これもいじめと同じく主観であるから，小・中学生の違いについて即断はしかねるが，いじめられた体験の意識を持っている者が過半数いる。

(2)**いじめられた相手**　いじめの時と同様，クラスの友達からいじめられたという回答が圧倒的に多い(表21)。

(3)**いじめられた場所**　小学生も中学生も「教室」が1位である(表22)。学校がいじめ―いじめられのfieldになっていることを物語る資料である。

(4)**いじめられた時**　これもいじめの時と符合し

表19　いじめをなくす方法

小学校男子	①仲良くする②いやがることをしない③仲間はずれをしない④親切にする⑤お互い注意する
女子	①仲良くする②仲間はずれをしない③悪口をいわない④思っていることをはっきりいう⑤いやがることをしない
中学校男子	①仲良くする②相手の立場で考える③いじめられるようなことをしない④自分が強くなる⑤先生が注意する‥
女子	①いじめられないようにする②仲良くする③相手の気持ちを考える④お互い注意する⑤思っていることをはっきりいう

＊全員による回答

表20　いじめられた経験

	小学校			中学校		
	全体	男	女	全体	男	女
1．いじめられたことがある	65.9	(65.2,	66.7)	52.4	(46.0,	59.7)
2．いじめられたことがない	32.7	(33.0,	32.4)	47.0	(54.0,	39.0)

＊全員による回答

表21　いじめられた相手

	小学校			中学校		
	全体	男	女	全体	男	女
1．おなじクラスの友達	63.8	(54.8,	73.5)	67.4	(67.5,	67.4)
2．おなじ学年の友達	6.4	(4.1,	8.8)	29.1	(22.5,	34.8)
3．上級生	16.3	(21.9,	10.3)	10.5	(17.5,	4.3)
4．下級生	2.1	(4.1,	0.0)	0.0	(0.0,	0.0)
5．近所の仲間(おなじ年)	4.3	(5.5,	2.9)	1.2	(0.0,	2.2)
6．近所の仲間(年上)	5.0	(8.2,	1.5)	0.0	(0.0,	0.0)
7．近所の仲間(年下)	1.4	(1.4,	1.5)	0.0	(0.0,	0.0)
8．その他	7.8	(4.5,	10.3)	5.8	(0.0,	10.9)

＊表21から表30までは「いじめられたことあり」の者(小学校141名，男子73，女子68，中学校86名，男子40，女子46)の回答

表22　いじめられた場所

小学校男子	①教室②学校③道路④遊び場⑤友達の家‥
女子	①教室②学校③通学路④家⑤廊下‥
中学校男子	①教室②学校③廊下④通学路⑤道路
女子	①教室②学校③体育館④運動場⑤トイレ

表23　いじめられた時

	小学校			中学校		
	全体	男	女	全体	男	女
1．学校にいく途中	2.1	0.0	4.4	1.2	0.0	2.2
2．休み時間	46.8	39.7	54.4	48.8	47.5	50.0
3．放課後	11.3	12.3	10.3	33.7	35.0	32.6
4．学校から帰る途中	20.6	17.8	23.5	10.5	10.0	10.9
5．家の近く	9.9	13.7	5.9	1.2	2.5	0.0
6．その他	16.3	15.1	17.6	22.1	20.0	23.9

ている(表23)。学校の休み時間，放課後，下校時が多い。

(5)いじめられたときの気持ち　いじめの時の「おもしろい」から一転して，いじめられた時は「いやな気持ち」「しかえししたい」が1，2位にあげられている(表24)。立場が逆転するとこうも異なった反応になる。相手の立場に立って，相手の痛みがわかるような人間になってほしいとねがう気持ち大である。

(6)いじめる人の気持ちの推測　表25を参照されたい。これも表9との関連で考えてみると，自分をいじめている人の気持ちを推測するよりも，自分がいじめている時の気持ちの投影ともうけとれそうな応答の結果である。それがはたして推測なのか，投影なのか，前にものべたように，得られた結果だけからは断じがたい。

表24　いじめられた時の気持ち

小学校男子	①いやな気持ち②腹がたつ③くやしい④しかえししたい⑤悲しい
女子	①いやな気持ち②くやしい③悲しい④腹がたつ⑤にくい
中学校男子	①しかえししたい②いやな気持ち③くやしい④腹がたつ⑤学校に来たくない
女子	①いやな気持ち②くやしい③悲しい④腹がたつ⑤理由がわからない

表25　いじめる人の気持の推測

小学校男子	①おもしろい(楽しい)②いい気持ち③ざまみろ④いやな気持ち ⑤すかっとする
女子	①おもしろい(楽しい)②いい気持ち③ざまみろ④にくい⑤いやな気持ち
中学校男子	①おもしろい(楽しい)②わからない③いい気持ち④ふざけ半分 ⑤ただ，いじめたい‥
女子	①おもしろい(楽しい)②いやな気持ち③すかっとした④いい気持ち ⑤相手が悪い‥

(7)いじめられた理由　これについては，表26にまとめる。非常に注目すべきことに，「理由がわからない」が小・中学生を通じてトップである。いじめる時はその理由があるのに，いじめられる時には理由がわからない。このあたりに，現今のいじめの特質がひそんでいるように考えられる。

(8)いじめられたことについての両親の関与度　いじめられたことを両親はあまり知らないと子ども達はこたえている。つまり，自分がいじめられたことを告げていないのである(表27)。しかもいじめら

表26　いじめられた理由

小学校男子	①理由がわからない②遊びをことわった③悪口をいった④相手をいじめた⑤文句をいった‥
女子	①理由がわからない②嫌われた③人がいやがることをした④文句をいった⑤物を貸さなかった‥
中学校男子	①理由がわからない②遊びがけんかになった③生意気④おとなしかった
女子	①理由がわからない②態度が悪かった③気にくわないことをいった④嫌われた⑤でしゃばった

表27　両親の関知度

	小学校			中学校		
	全体	男	女	全体	男	女
1．知っている	39.0	(37.0	41.2)	39.5	(22.5	54.3)
2．知らない	59.6	(63.0.	55.9)	58.1	(72.5	45.7)

表28　いじめられたことを知ったときの両親の対応

小学校男子	①何もしない②止めた③先生にいった④なぐさめた⑤しかえせといった‥
女子	①何もしない②相手に注意した③言いかえせといった④相手を連れて来いといった⑤先生にいった‥
中学校男子	①しかえせといった②双方を怒った③相手に電話した④手をかしてくれた⑤何もしない‥
女子	①先生に電話した②なぐさめた③何もいわない④相手にするなといった

表29　先生の関知度

	小学校			中学校		
	全体	男	女	全体	男	女
1．知っている	29.1	(30.1,	27.9)	27.9	(25.0,	30.4)
2．知らない	69.5	(69.9,	69.1)	67.4	(70.0,	65.2)

表30　いじめられたことを知ったときの先生の対応

小学校男子	①注意した②我慢しろといった③仲直りさせた④一緒に考えた⑤何もしたい
女子	①注意した②何もしない③話し合った④自分で解決するようにいった
中学校男子	①注意した②相手にするなといった③何もしない④力になってくれた
女子	⑤相手と話した
女子	①何もしない②注意した③相手と話した④皆で話し合った⑤助けた‥

れた時，両親は何もしてくれなかったと感じている者が多い(表28)．いじめられた時の，両親の対応の難しさをほのめかしている資料である．

(9)いじめについての先生の関与度　子ども達は先生に，いじめられたことをあまり告げていないようである(表29)．それを知ったとき，先生は「注意した」が，小学生男女，中学生女子に1位としてあらわれているのに，中学生女子の1位が「何もしなかった」というのは注目させられる(表30)．ここでも先生は先生として，うつべき手は打ったのに，何もしないように子ども達に映っていたか，実際に何もしていなかったのか，この点についても，一層のほりさげが今後のぞまれる．

参考文献

遠藤豊吉・NHKおはよう広場班　1984　NHKおはよう広場　弱いものいじめ―教室からの報告―日本放送出版協会

桂　広介・長島貞夫・真仁田昭・原野広太郎編　1985　子どもの相談事例集　児童心理6月号　臨時増刊・第39巻第8号　金子書房
桂　広介・長島貞夫・真仁田昭・原野広太郎編　1985　いじめを超える！　―105人提言集―児童心理10月号増刊・第39巻第13号　金子書房
警察庁編　1985　警察白書(昭和60年版)科学化の進む警察活動　大蔵省印刷局
総理府青少年対策本部編　1982　国際比較　青少年と家庭　青少年と家庭に関する国際比較調査報告書　大蔵省印刷局
総務庁青少年対策本部編　1985　青少年白書(昭和59年版)　―青少年問題の現状と対策―　大蔵省印刷局
詫摩武俊　1984　こんな子がいじめる，こんな子がいじめられる　山手書房
西日本新聞社社会部取材班編　1985　弱者いじめ　西日本新聞社
文部省編　1983　生徒指導資料第18集　生徒指導研究資料第12集　生徒の健全育成をめぐる諸問題　―登校拒否問題を中心に―　―中学校・高等学校編―　大蔵省印刷局
文部省編　1984　小学校生徒指導資料3　児童の友人関係をめぐる指導上の諸問題　大蔵省印刷局
文部省編　1984　生徒指導資料第6集　学級担任の教師による生徒指導　大蔵省印刷局
文部省編　1985　生徒指導資料第2集　生徒指導の実践上の諸問題とその解明　大蔵省印刷局

（執筆：鈴木康平・吉田道雄，質問紙作成・分析：鈴木・佐藤・篠原・吉田）

Ⅱ．いじめの集団構造

本稿では，いじめの形態を個人の観点から眺める臨床心理学的接近法とは異なって，集団力学的な接近法を用いて集団という観点からながめて見たい。

稲村博(1981)は，いじめられっ子のタイプを，1．突っぱり型，2．臆病型，3．優秀児型，4．不良型，5．ハンディキャップ児型，6．その他，という6つに分類している。また，いじめの方法については，1．集団で口をきかず無視する，2．仲間はずれにする，3．ボスに屈服して他をいじめる，4．暴力，5．だかり，6．からかい，7．その他，という7つをあげて説明している。また，森田(1985)は，学級におけるいじめの集団構造として，学級の中に加害者，被害者，おもしろがる観衆，見て見ぬふりをする傍観者という4つの集団成員にわけて考察を加えている。

しかし，本稿では，いじめの形態を集団構造という観点から大きく4つのタイプに分類して考察する。ただし，この分類は，1つ1つのケースを細かくみるといくつかの分類にまたがっていることもあり得る。あくまでも，ここでは特徴的なことを基に分類し考察することをことわっておく。

さて，まず我々が集団力学の用語で「集団構造」という場合を簡単に説明しておこう。いま，あるひとつの集団があるとする。集団の最初のころは，ただそこにひとが集まっているだけで，仲間としての結びつきがまだ出来ていない個人がばらばらな未分化な段階から，次第に集団活動を通じてリーダーとメンバーとの関係，つまりリーダーが発生し，それに従属していくフォロワーという人間関係が出来上がっていく発達段階がある。いわゆるリーダーシップ構造が出来上がっていく過程を集団構造化と我々は呼んでいる。このような集団の構造化という観点から，いじめの集団発達，あるいは，いじめの移行過程を分類してもよいと考えられる。

そこで，いろいろな文献や昭和59年1月から60年6月までの過去一年半の間の日本全国のいじめに関する新聞記事を「切抜き速報」教育版（収録記事は，昭和58年11月17日～60年5月14日）を基に調べて，いじめの分類を試みた。分類の対象となったひとつひとつの具体的ないじめについての内容の詳細は，以下の文献を参照されたい。最近の出版では，西日本新聞社が昭和58年9月からキャンペーンを行なった連載記事が，昭和60年5月に「弱者いじめ」という単行本になって出版されている。これはなかなか示唆に富み，いろいろないじめの実態や実践的な解決例が報告されている。昭和59年5月には日本放送出版協会から「弱いものいじめ」という本が出版された。これはＮＨＫの「おはよう広場」で「教室からの報告」として放送されたものを編集したものである。昭和56年10月にあゆみ出版から「弱いものいじめ」という書物が，また同年の5月に月刊生徒指導編集部が教育雑誌「生徒指導」の昭和53年5月から55年5月までの特集記事を編集した「集団いじめ」という本が出版されている。この後者の2冊の本が昭和56年に出版された意味は，昭和53年2月に滋賀県野洲町で仲間から「なぶられもの」になっていた2人の中学生が，いじめっ子の他の4人を刺身包丁で殺傷した事件がきっかけになっているようである（樋口恵子，1981：密室の中の殺人）。これは，昭和59年12月に衝撃を与えた大阪の高校生の事件と同じ形のいじめの仕返し事件である。このような衝撃的な事件を契機とした社会的意味から昭和60年が第2のいじめキャンペーン年になっているように思われる。日本全国でこの1年半の間にいじめのキャンペーンを打ちだしていた新聞社として，秋田魁新報，

埼玉新聞，河北新報，サンケイ大阪，読売大阪，そして西日本新聞という6社が注目される。

さて，以上のいじめについての新聞記事や文献について，筆者は，表1に示したようにいじめの形態を大きく4つの集団形態に分類してみた。

表1　いじめの集団形態

A．集団斉一性型
　1．出る杭うち型
　2．異端型…転校生いじめ
　3．小グループでの約束破り
　4．集団規範同調型…遊び型(ゲーム型，愉快型)
　5．落ちこぼれ型…身なり，動作，性格，身体的ハンディキャップ
B．リーダーによる支配権確認型
　1．体制迎合リーダー型
　2．ボス型
　3．支配交代型(政権交代型)
　4．反抗的リーダー集団型(不良集団型)
C．ペッキング・オーダー型および報復爆発型
　1．スポーツ集団リンチ型
　2．恐喝型，学年階層型
　3．報復爆発型
D．個人の欲求充足，緊張解消型
　1．妬み，嫉みによるいじめ
　2．うっぷんばらし
　3．アクティングアウト型

第1は集団斉一性から生じるいじめ(A類型)である。集団には，集団が均質になろうという性質が存在する。この均質化の方向は，プラスとマイナスの方向が考えられる。凝集性やチームワークが高いほど集団から外れるものを許さない。あるいは点取り虫みたいなものを許さないという集団の傾向がある。したがって，ここに分類されるいじめは，集団の斉一性が，「その集団から外れている」と感じられ仲間にたいしてマイナスに作用する形のいじめといえる。

第2に分類したいじめは，メンバーではなく，リーダーを中心としたいじめ(B類型)である。

第3の分類は，グループにおけるペッキング・オーダー型，つまり支配構造型のいじめ(C類型)である。ここで，ペッキング・オーダーについて簡単に説明すると以下のようになろう。いま，何羽かのニワトリがいるとする。一番喧嘩の強い鶏がまず餌をつっつき，それが満腹して餌を食べるのをやめると，二番目に強い鶏が餌を食べ始める。もし，一番目の鶏が満腹しないうちに二番目の鶏が餌をつっつくと力の強い上位の鶏から頭をつっつかれてしまう。以下，2番目の鶏と3番目の鶏との関係，そして3，4番目の鶏というように同様な力関係がつづき，力関係が下位の鶏が餌を食べ始めると上位の鶏が頭をつっついて食べさせない。こういうふうに鶏の集団には序列が決っている。ここに分類されるいじめは，集団発達の最終段階における勢力関係の階層に沿った構造的いじめといえるだろう。

第4は，集団成員の個人的な欲求の解消の対象としてなされる弱いものいじめ(D類)である。集団は，いろいろな個人の欲求を解消する場でもある。個人の持っているこのような緊張解消や欲求の充足を，個人が集団の中で意識的無意識的に他の成員に対して求めることから，ある種のいじめが発生する。

以下，上に述べた4つの分類ごとにその各々の下位分類について説明していこう。

まず，A類型として述べた集団斉一性の典型的なものを簡単に述べる。

第1は，「出る杭は打たれる」式のいわゆる優等生いじめである。熊本県の牛深市でも優等生をいじめたケースが報道されたが，ここに分類されるいじめは，数としては多い。例えば，ある女子生徒が生徒会長に立候補して非行追放運動を掲げたら，他の誰もついてこなかった。よく調べたところ，非行グループを恐がって，彼女に誰もついてこない。仲良しの友達でさえも「あんたぶりっ子ね」と敬遠するようになった。結局，生徒会長に立候補した彼女自らが，3カ月後にはマイナスの集団規範に同調するために，胸をはだけてネクタイをだらしなく結んで不良がかった服装をして登校するようになった。これは，セーラー服の校則を破ることで「正義派でない」ことを示し，みんなの規範に同調しようとしたケースである(「弱者いじめ」pp. 213-216)。そのほかのケースとして，たとえば勉強でもスポーツでも一生懸命する子どもやおとなしい優秀児をいじめるケースがある。仲間から「おまえは点取り虫だ」，「先生はおまえだけをひいきする」とかいう形で足を引っぱられる。これはリーダーが権威主義的なタイプの下ではよく生じる。ホワイトとリピットによる有名な実験でも明らかなように，権威主義的リーダーの下では点取り虫と思われる子供が他のこども達から嫌われる。これは，教師側から見たときのプラス方向に外れたケースとして「出る杭は打たれる式」のいじめである。

第2は，マイナス方向にはずれたという形のいじめである。それは，集団とどこかちょっと変っていることからいじめられる異端児型いじめである。そ

れ故，とにかく他と変っているいう意味から転校生がえてしてその対象になる．転校生は，はじめもとの学校の制服を着ているとか，服装があかぬけしているとか，あるいは何々弁とかいうことで言葉が変っていたりして新しい学校の子どもとの違いが明瞭である．そこにいじめの発生のメカニズムがある．つまり，集団の標準と異なるから，集団の標準と一致するようにいじめという形で集団への斉一性への圧力が生じていると考えられる．

第3は，グループの約束を破ったことからくるいじめである．小集団には，集団の規範を守らなかったことに対して制裁を加えるケースがよくみられる．これは，朝日新聞に「いじめ対策打ち出せず」と題された記事のケースである（朝日新聞，東京版，85．1．25夕刊；産経新聞，東京版，85．1．28朝刊）．この記事は，茨城県水戸市で昭和60年1月に起った中学2年生女子の自殺である．これは，その中学生が，日曜日に5，6人から成るグループでスケートに行く約束をしていたが，母親が許さなかった．スケートに行けない旨をその朝，友達に電話したところ友達はすでに家を出ていて連絡がとれなかった．すると，次の日からいじめが始まった．「あんたは約束を破った」と非難されたり，持物や教科書に「死ね」と書かれたり，鉛筆をみんな折られたりする．そして，仲間が家にまでも押しかけてきて，「なぜ約束を破ったのか」と問い詰める．母親も同席しようとすると，「あたしらだけで話をつける．黙っていろ．ババア」というひどさであったという．仲間であった者からいじめられる．それで耐えきれなくなり首吊り自殺をしたケースである．彼女の通学していた学校はいわゆる新設校で，まだ学校の体制や学級規範および地域の体制が十分に確立していなかったと報道されている．いじめの防止にはそういう社会的な要因の確立も重要である．

第4は集団規範同調型のいじめである．これは，多数の仲間といじめを遊びの軽い気持で行なっているうちにいつの間にか本格的ないじめに発展しているタイプである．最初はちょっと髪の毛がちがう子どもをからかってみるとか，あるいは，バイキン遊びといわれるもので，「○○君の触ったものは汚い，○○菌がついているよ，キテネー」とかはやしたてる遊びで始まる．こうしてつぎつぎといじめの対象を変えながらからかい，愉快さを求めて遊んでいる．仲間になっていっしょにいじめていると，こどもは自分がいじめる側には入っていないと逆に自分がいじめられることがわかってくる．いじめの対象をぐるぐる回している途中でいじめる対象が固定されてくる．これが本当のいじめにエスカレートしてしまう．いじめられる側がいじめられたときに「いやだ」とか，教師や父母に伝えるとか，きっぱりした態度や行動を示さないとこの固定が確定する．最近はこの型のいじめが多いといわれている．すなわち，いじめ側のいじめの歯止めや，いじめられっ子の自己防衛法の学習不足の問題である．

第5は，落ちこぼれ型と分類されるいじめである．身なりが汚いとか動作が鈍いとか性格がはきはきしないで黙っているとか，あるいは身体的なハンディキャップがあるとかが1つのきっかけになってからかわれる．集団にあまりついていけない，グループ学習でもついていけない，そのために教師や仲間から邪魔もの扱いをされる．これがいじめに発展し固定化される．いじめられるこどもは，もともとそういうある欠点をもっているので，非常な劣等感のために深刻に胸にこたえるようである．こうした型のいじめは，昔もよくあり，他人の目につきやすい形態のいじめである．

これまで述べたA類型のいじめは，いわば不特定多数の集団メンバーがひき起す集団斉一性への圧力に基づくいじめといえるが，次のB類型のいじめは，リーダーが自分の支配権を誇示するために行うタイプのいじめである．あるいはリーダーの支配権確認型のいじめといえる．

その第1は，教師に迎合したかたちのリーダーによるいじめである．第2は，ボス型支配のいじめで，腕力型リーダーによるいじめが多い．頭が良くて腕力が強いというボス型の子どもが反社会的な規範を身につけた場合には，深刻ないじめが見られる．これは，ボス本人が自らみんなをいじめる．あるいは誰かに命令していじめさせるという形のいじめである．昔はこうしたいじめが多かったが，最近はこのようなボスが少なくなったといわれている．

さて，B類型のうち第1は，体制迎合型リーダーによるいじめである．これは，先生の考えているあるいは学校が良しとする規範，道徳規範，あるいは，学校のきまりを守る，忘れものをしない，そういう規範を受けいれている子どもが行ういじめである．つまり，教師の持っている規範を口実にして，教師という現体制の規範を一見とりいれた子どもが，正義の旗のもとにそうした規範を破った仲間をいじめるケースである．そうした「正義」を破った者を何かのきっかけで徹底的にいじめる．いじめる側は教師に受けいれられる体制の下にいることから，いじ

めの仲間が多くなる。したがって，そういうみかけ上の正義で1人の弱いものをいじめ尽すことになる。このケースのいじめは，教師がいじめの側の論理を暗黙のうちに支持しているため，なかなか他人の目につきにくいいじめと考えられる。

第2に示したボス型のいじめは，昭和59年12月に発生した大阪の産業大高校の高校生2人による同級生殺人事件がここに分類される。ただし，これは，被害者のK君のいじめについてみたときの分類である。この事件の追跡結果が，朝日新聞の記事に詳細に報道されている(朝日新聞，大阪版，85.4.2夕刊)。学校の報告書によれば，殺された高校生が12回にものぼるいじめを殺人の加害者である同級生2人に行っていたという。報告書によるいじめには，被害者のK君と，A，Bという加害者，そしてC，DというK君の子分が登場する。K君は，そのC，Dという仲間を使ってかなりのいじめをさせていた。例えば，加害者であるA，B2人に，腕力のあるC，Dの2人をわざと殴らせる。当然のことに命令されて殴る側のA，Bの2人は体力的にC，Dに負ける。そしてK君は，命令されたA，Bの2人がC，Dの2人を恐がるのを喜んでいたという。この他に，わざと自転車を盗ませる。授業時間中にマスターベーションをさせる。命令を聞かないといろいろといじわるをする。というケースも報告されている。

第3のいじめは，支配交代型のいじめと分類されるものである。これは，下野新聞の記事で「生徒いじめられ心身症に」とタイトルされているケースである(下野新聞,85.1.15)。このケースはいじめられた側の中学生が，もとは上級生からなる3年生のいじめ側の仲間だったという。そのうちに上級生の3年生達が卒業して庇護者がいなくなり，今度は逆に自分が仕返しされる側になった。つまり政権交代によっていじめられたケースである。この型のいじめは小学校でもよく起こっているようである。小学4年生の女の子の例で(弱者いじめ，pp. 192-195)，このA子は，クラス委員を経験した子どもであったが，ある日，絵の具を盗んだという噂をたてられる。おとなしいが成績はよくないB男が，その日からとつぜん変貌し，A子の糾弾の先頭に立ち，教室では「盗んだことを早く白状しろ」と追いかけまわし，運動場ではA子の顔をめがけてドッジボールを投げつけたりするようになった。また，「A子は，“よい子”だから，ドロボーしても先生に叱られないのだ」というB男の言葉は，成績のシールはり競争で落ちこぼれた子どもをひきつけ，いじめの仲間を増やしていった。つまり，はじめはクラスで支配権が弱かった者が，いじめの参加者を得て天下をとり，いつの間にか絵の具事件とは無関係に「頭がいいからといっていばるな」と他の成績上位の子どもに対してもいじめの矛先をむけていったという。

第4は，社会的な反抗型のリーダーもしくは不良集団が行ういじめである。これは，多くの場合，物品や金銭をたかったり恐喝するいじめを伴っている。

次にC類型のいじめには，ペッキング・オーダー型や，いじめの反作用として生じる被害者の報復型が分類されるであろう。

ペッキング・オーダー(突っつき順序)型のいじめは，第1分類としてあげたようにスポーツ集団のリンチとしてときどき発生しているようだ。スポーツ集団のリンチは，技能の序列がはっきりしている集団の中での構造的いじめとみなせるだろう。このリンチは，ふつうペッキング・オーダーの順序で，仲間の中で技能的におとった下位の者に攻撃が向けられる。

第2は，恐喝型あるいは学年階層型のいじめである。集団の勢力構造の序列の中でのいじめは，恐喝して物品や金銭をまきあげることが目的になっていることもある。上級生からやられたら，自分達よりも弱い同学年の相手や下級生を恐喝する。このような恐喝が，学校の中で勢力構造の順に下へ下へとおりていく。しまいには，このような加害者や被害者が全校生徒の約95%以上にものぼった福岡県の筑豊地区の中学の例も存在する(弱者いじめ，pp. 30-33, 154-174)。

第3の報復爆発型のいじめは，結末からの分類である。前述の大阪の産業大高校の事件が結末から分類すると，これにはいる。どのようないじめの経過であったにせよ，いじめられた側による殺人という仕返しにまで至るほど，残酷ないじめが以前に存在したと考えられるケースである。ここでも被害者と加害者のいじめ，いじめられの歯止めと自己防衛法の学習不足が指摘される。

最後のD類型のいじめは，個人の欲求充足，妬み・嫉妬によるいじめと緊張解消型のいじめ，およびアクティング・アウト型のいじめである。

NHKの報告している登校拒否に至ったケースでは次の例が個人の欲求充足型のいじめとして分類されるだろう(弱いものいじめ，pp. 22-34)。ある5年生のクラスの中に非常にピアノの上手な子が3人いた。そのひとりがミチ子で，他をA子，B子とする。そして地区の小学校の音楽コンクールに伴奏者を通

常２人選んでいたその学校が５年生の４月になぜかミチ子１人だけを選んだ。その後，半年ほど経過した時の遠足の帰りのバスの中で担任教師が別な教師に，「演奏会のときのミチ子さんのピアノは少し硬かった」と批評した。それを聞いた勝気なＡ子が，「ミチ子さんのピアノは下手だってよ。先生がそう言っていたわ」とライバル意識をＡ子と同様にもっていたＢ子に話した。ピアノの伴奏者になれずに屈辱感を味わっていたピアノの上手なＡ子とＢ子，更に勝気なＣ，Ｄという女の子が加わって，ミチ子をいじめるようになった。ついにミチ子は，学校に行くのを拒否するようになった。このケースでは，いじめる側の欲求不満，即ち晴れがましい場でのピアノ伴奏をとられたことによる妬みと嫉妬，そして教師の批評という後押しの中で，いじめが突然始まった。半年もの間，嫉妬がくすぶっていたのである。担任教師がミチ子を支持していると思っている間は，いじめは存在しなかったが，「どうやら先生はミチ子さんを高く評価していないらしい」と発見してからいじめがふきだしたのである。

最後はうっぷんばらし，あるいは臨床心理学でいうアクティング・アウトといわれるかたちのいじめである。うっぷん晴らしは，その個人が属する集団の中で仲間に向けられる場合と，集団の外に向けられる場合が考えられる。

個人の欲求不満や緊張を，単なるうっぷんばらしのために自己の所属する集団内の弱い仲間をいじめることは，かなり多いと思われる。これまでに述べてきたいじめの多くが，その動機に個人の欲求不満が多かれ少なかれ存在しているものと考えられる。

アクティング・アウト型のいじめは，集団の中で引き起された緊張や欲求不満をもつ成員が，その集団の外でうっぷんばらしのためにいじめを行うケースである。所属する集団では，地位が低いために緊張を内部の成員に向けることができず外部に向けるのである。これは，具体的には，近所の弱いものをいじめるとか，犬をいじめるとかすることで出現することがある。以前に横浜で中学生が，浮浪者を遊び半分に殺した事件があった。これもここに分類してよいだろう。

以上にいじめの集団形態を分類・考察してきたが，集団のダイナミックスの中でどのようないじめが存在しているかを知ることは，今後のいじめの防止や解決に近づく１つの道であろう。

参考文献

1）稲村　博，1981年，現代のスケープゴート―いじめられっ子，月刊生徒指導編集部編「集団いじめ」，学事出版，pp. 16-35.

2）月刊生徒指導編集部編，1981年，集団いじめ，学事出版，242pp.

3）城丸章夫監修，家本芳郎，佐藤　功編著，1981年，弱いものいじめ，125pp.

4）遠藤豊吉，NHKおはよう広場班，1984年，弱いものいじめ―教室からの報告，224pp.

5）西日本新聞社会部取材班，1985年，弱者いじめ，255pp.

6）樋口恵子，1981年，密室の中の殺人，月刊生徒指導編集部編「集団いじめ」，学事出版，pp. 92-100.

7）ホワイト，L. & リピット，R. 1959年，三種の社会的風土におけるリーダーと成員の反応，三隅二不二・他訳，カートライト，ザンダー編著，「グループ・ダイナミックス」，誠信書房，pp. 687-716.

8）株式会社ニホン・ミック，「切抜き速報」教育版，1984年１月上～1985年６月下

9）森田洋司，1985年，学級集団における「いじめ」の構造，「ジュリスト」，1985年５月15日号，pp. 29-35.

（篠原弘章）

Ⅲ．集団力学からみたいじめ

問題

本研究は，大学生を対象におこなった自由記述式のいじめの体験調査をもとに，いじめの実態，構造ならびにその力学について若干の考察をおこなったものである。

方法

追想法によるもので，小・中・高校時代にいじめた，いじめられた，あるいはいじめを見ていたという体験についてできるだけ詳しくかつ具体的に，時期，登場人物，場所，内容等について記述してもらった。対象は熊本大学教育学部学生１年次113名(男子45名，女子68名)で，寄せられた体験事例は，103事例である。事例の内訳は，いじめた事例34事例(男子19，女子15)，いじめられた事例20（男子４，女子16)，見ていた事例44(男子14，女子30)，そしてその他・不明５(男子２，女子３)であった。調査日は昭和60年６月である。

結果と考察

まず，いじめの体験の時期を示したものが表１である。いじめの体験は，小学校１年生の時から既にみられ，小学校３，４年生頃から急激に増加してくるといえる。小学校３，４年生といえば，今回の調

表1　体験の時期

小学校	1年	2	48
	2年	2	
	3年	4	
	4年	11	
	5年	8	
	6年	14	
	不明	7	
中学校	1年	10	46
	2年	10	
	3年	13	
	不明	13	
高　校		9	9
			103

査の対象となった大学生が約10年前の時のことである。このことは，今日的ないじめ(後の表3，表4を参照)が，過去4，5年前に社会問題となった校内暴力や家庭内暴力の起る以前から既に発生していたことを示すものとして注目される。

次に，いじめの舞台・人物について示したのが表2である。ここで「学級」とは，学級内の人間関係の範囲内で生じているいじめの事例を指す。これに対し，「学校」とは，学級を越えた人間関係あるいは，上級生，下級生間に生じた事例である。また「地域・近隣」とは，地域での隣近所の同年齢，異年齢間に生じている事例である。その結果，「学級」でのいじめが全体の約80%を占め，「学校」及び「地域・近隣」でのいじめが極めて少なくなっている。先に示した現在の小・中学生を対象とした調査結果で，いじめの相手及びいじめる時の仲間として「同じクラスの友達」が圧倒的に多く上げられてきていることとも類似した結果であるといえる。そして，教師や親がそれに気づいていない(後の表8参照)ということとも併せ考えると，今日のいじめが，人間関係において，また心理的に相対的に閉じられた系の中で生じてきているところに一つの特徴があるといえる。

表2　いじめの舞台・人物

学級	82
学校	12
地域・近隣	3
その他(不明・無記入)	6
	103

表3は，いじめの種類・内容について示したものである。仲間はずれ・村八分，暴力，悪口，傷つくことをいう，無視など，いずれも現在の小・中学生を対象におこなった先の調査結果と同様，身体的乃至精神的苦痛を与える種類・内容のものとなっている。

表3　いじめの種類・内容

仲間はずれ・村八分	22
暴力	20
悪口・からかい・いたずら	20
傷つくことをいう（ばい菌・臭い・汚い）	19
無視	13
物をかくす・すてる	2
その他	7
	103

では，いじめられた子どもがどのような状態であったのかを示したのが表4である。この中には，自殺1件，自殺すると口ばしる2件をはじめ，登校拒否的傾向，学校に行くのがいや，早退・欠席など深刻な状況が示されている。

表4　いじめられた子の気持ち・行動

登校拒否的傾向	4	11
学校に行くのがいや	3	
早退・欠席	3	
転校	1	
自殺・自殺すると口ばしる	3	
泣く	2	
いかり	2	
くやしい	1	
孤独	1	
自律神経失調症	1	
夢でうなされる	1	
ぐれる	1	
いい経験になった	1	
	24	

(いじめた子・みていた子の記述も含む)

また，どんな子がいじめられたのかについて示したのが表5である。その結果，なんとなくかっこの悪い子というのが最も多く上げられている。例えば，背が高い・低い，色黒・色白，こえてる・やせてるなどなんでもないことで平均的でない子がいじめの対象となっていることが考えられる。これは，異質性の受容の程度の低さとも関連してくるのかもしれない。今日の成績や偏差値中心の教育のあり方が，こうした異質性の受容を低下させている原因の一つ

表5　いじめられた子のタイプ

なんとなくかっこの悪い子 （背が高い・低い・やせ・おとなしい・色黒・天然パーマ・体が弱い etc.）	26
不潔な感じのする子	8
先生のひいき・先生へのかげ口	7
学力の劣る子	6
転校生	5
かっこつける子	5
まじめ・点取り虫	4
優等生	4
勝ち気・わがまま	3
身体的障害のある子	2
約束をやぶる子	1
その他(不明・無記入)	32
	103

となっているのかもしれない。

次の表6及び表7は，いじめた時，あるいはいじめを見ていた時の気持ち・行動について示したものである。表6のいじめた時の気持ち・行動としては，なんとなく(悪気はなく)，しかたなく(いじめないと自分がいじめられる)，気になりながらも皆に従う，更には面白半分・おもしろいなど，また表7での見ていた時の気持ち・行動では，やめるよう言うことができなかった，しゃべると自分がいじめられる，みてみぬふりをする，更には面白い感じ，楽しむ感じなど，傍観者的で受け身的な態度・行動がうかがわれる。

表6　いじめた時の気持ち・行動

なんとなく(悪気はなく)	7	15
しかたなく(いじめないと自分がいじめられる	6	
気になりながらも皆に従う	2	
面白半分・おもしろい		4
気にくわない・腹が立つ		3
悪いことをしたと思う・あやまりたい		6
		28

(いじめた子・見ていた子の記述も含む)

表7　みていた時の気持ち・行動

やめるよう言うことができなかった	7	16
しゃべると自分がいじめられる	6	
みてみぬふりをする	3	
かわいそう		5
面白い感じ・楽しむ感じ		3
もっと強くなれ・なさけないと思った		3
いやいやだったが話しかけた		1
高校生のすることではない		1
真剣に話しかけるべきだった		1
		30

最後に，こうしたいじめの事例の中に，教師の指導・介入がみられるかについて示したのが表8である。結果から明らかなように，積極的に教師の指導・介入がみられたのが103事例中20事例で約20%である。これに対し，教師の指導・介入についての記述がみられないものが60事例，それに，担任は気づかず，注意・介入なし，気づいても何らの指導もないを加えるとかなり多くのいじめの中に教師の指導・介入が登場していないことを示している。

表8　教師の指導・介入

先生の注意・協力・介入	13	20
学級会・HR・学活	7	
先生に話した		6
親に話した		4
友達が話しかけてくれた		1
担任は気づかず・注意・介入なし		11
気づいても何らの指導もない		1
教師の指導・介入については記述なし		60
		103

今日のいじめ問題の背景には，家庭，学校，地域(社会)そして時代的な様々な要因があることはいうまでもないが，しかし，学校における教師の指導・介入のあり方が，いじめ問題を解く一つの大きな鍵をにぎっていることはいうまでもないことであろう。

(佐藤静一)

おわりに

われわれの研究の一端なりとも，いじめの解消に役に立ってもらえれば望外の幸せである。いじめは，考えかた見方によっては，確かに今にはじまったこととはいえないであろう。人間の心理にひそむ陰湿な部分の現われかもしれない。しかしそれを，したがってやむをえない事象だとしてしまうことは決してできない。

ところで，このような社会心理学的アプローチは，ノモセティックなものであり，個々の問題にせまるイデォグラフィックなアプローチも必要であるとする意見は当然のことながら重要な意味をもっている。“いじめ一般”をいくら追究しても，“個のいじめ”についての解決にはつながらないかもしれない。し

かし教育に関わる事象は，常に，一般法則追究の水準と，個にかかわる法則追究の接点におけることがらであり，そこに教育的活動の悩みが常に存在する。いじめもその例外ではないであろう。一般の立場をみつつ，個の側にたって子どもの成長をみつめることが常に要請されているといえよう。ここでの諸調査を通じて，相手の立場に立ちうる子，相手の痛みがわかる人間になる子の育成を真剣に考えていく必要があることが明確である。いじめを単に一過性の問題としてみてしまわずに，人間育成に関わることがらとして，常に心しておくことの必要性を痛感する。

この稿を書いている最中に，警察庁の今年(1985)の上半期(1月から6月)の実態調査が発表された。「"いじめ"の動機『はらいせ』『面白半分』—追い込まれ4人自殺，心の荒廃浮き彫り—」(熊本日日新聞，1985.9.22　朝刊)と新聞第一面に報じられている。274件，926人が補導されたとある。暗然とした気持ちである。

(鈴木康平)

調査のおねがい

この調査は「いじめ」についてのみなさんの考えを知るために実施します。あなたが答えた内容は，だれにもわかりませんので，感じていることや思っていることをありのままに答えてください。(学年と性別だけは記入してください)

学年	年	性別	1．男　2．女

F1．あなたには兄弟が何人いますか。
　1．兄弟はいない　　2．(　　)人いる
　　→あなたは何番目ですか(　　)番目
　　→例にならって上から順に性別を書いてください
　　例：(男)(女)(女)‥‥
　　(　)(　)(　)(　)(　)

1．あなたはどんなことをするのが，「いじめ」だと思いますか。
　下の欄に自由に書いてください。(4つまで)
　①＿＿＿＿＿＿＿＿　②＿＿＿＿＿＿＿＿
　③＿＿＿＿＿＿＿＿　④＿＿＿＿＿＿＿＿

2．あなたはこれまでに人をいじめたことがありますか。(番号を○でかこむ)。
　1．いじめたことがある　　2．いじめたことがない
　「2．いじめたことがない」に○をつけた人にお聞きします。
　それでは，あなたはほかの人がだれかをいじめているのを見たことがありますか。
　1．見たことがある　　2．見たことがない
　「2．見たことがない」と答えた人は，14番までとばして，15番から答えます。

これからの質問にはあなたが人を「いじめ」たり，ほかの人がだれかを「いじめ」ていたのを見たりしたことのうち一番よくおぼえているものを思い出して，答えてください。
見たことがある人は(　)の中の質問に答えてください。

3．それはいつごろのことですか。
　(　　)年生の(　　)学期ころ

4．だれをいじめましたか。(だれをいじめていましたか)(二人以上のときはかっこの中に人数も書いてください
　1．おなじクラスの友達(　)人を　　2．おなじ学年の友達(　)人を
　3．上級生(　)人を　　4．下級生(　)人を
　5．近所の仲間(おなじ年)(　)人を　　6．近所の仲間(年上)(　)人を
　7．近所の仲間(年下)(　)人を　　8．その他(　　)

5．だれといっしょにいじめましたか。(だれといっしょにいじめていましたか)
　1．ひとりで　　2．おなじクラスの友達(　)人で
　3．おなじ学年の友達(　)人で　　4．上級生(　)人で
　5．下級生(　)人で　　6．近所の仲間(おなじ年)(　)人で

7．近所の仲間（年上）（　　）人で　　8．近所の仲間（年下）（　　）人で
9．その他（　　）

6．どこでいじめましたか。（どこでいじめていましたか）（場所を書いてください）
（　　）

7．いついじめましたか。（いついじめていましたか）
1．学校にいく途中　　2．休み時間
3．放課後　　4．学校から帰る途中
5．家の近く　　6．その他（　　）

8．人をいじめるとき，どんな気持ちになりましたか。（いじめた人はどんな気持ちだったと思いますか）
自由に書いてください。（4つまで）
①＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　②＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
③＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　④＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

9．いじめられている人は，どんな気持ちだと思いますか。
自由に書いてください（4つまで）
①＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　②＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
③＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　④＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

10．なぜ，人をいじめたのですか。（なぜ人をいじめていたのだと思いますか）
自由に書いてください。（4つまで）
①＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　②＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
③＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　④＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

11．あなたはいじめについて，どう考えていますか。
1．絶対にしてはいけない　　2．あまりしないほうがいい
3．理由があれば少しは仕方がない　　4．理由があればいくらしてもいい
人がいじめているのを見たことがあるだけの人は13番にすすんでください

12．両親はあなたが人をいじめたことを知っていますか。
1．知っている　　2．知らない
→そのとき両親はどうしましたか
（　　）

13．あなたの両親はいじめについてどう考えていると思いますか。
1．絶対にしてはいけない　　2．あまりしないほうがいい
3．理由があれば少しは仕方がない　　4．理由があればいくらしてもいい

14．先生はあなたが人をいじめたことを知っていますか。（（人がいじめていたことを知っていますか）
1．知っている　　2．知らない
→そのとき先生はどうしましたか
（　　）

15．先生はいじめについてどう考えていると思いますか。
1．絶対にしてはいけない　　2．あまりしないほうがいい
3．理由があれば少しは仕方がない　　4．理由があればいくらしてもいい

16．あなたはどうすればいじめがなくなると思いますか。
自由に書いてください。（4つまで）
①＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　②＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
③＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　④＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

17．あなたはこれまでに人からいじめられたことがありますか。（番号を○でかこむ）
1．いじめられたことがある　　2．いじめられたことがない
「2．いじめられたことがない」に○をつけた人はこれで終わりです。ありがとうございました。

これからの質問には人を「いじめられた」ことのうち一番よくおぼえているものを思い出して，答えてください。

18．それはいつごろのことですか。
（　　）年生の（　　）学期ころ

19. だれからいじめられましたか。(二人以上のときはかっこの中に人数も書いてください)
1．おなじクラスの友達（　　）人から　　2．おなじ学年の友達（　　）人から
3．上級生（　　）人から　　4．下級生（　　）人から
5．近所の仲間（おなじ年）（　　）人から　　6．近所の仲間（年上）（　　）人から
5．近所の仲間（年下）（　　）から　　8．その他（　　）

20. どこでいじめられましたか。(いじめられた場所を書いてください)
（　　）

21. いついじめられましたか。
1．学校にいく途中　　2．休み時間
3．放課後　　4．学校から帰る途中
5．家の近く　　6．その他（　　）

22. いじめられたとき，どんな気持ちになりましたか。
自由に書いてください。(4つまで)
①＿＿＿＿＿＿＿＿　②＿＿＿＿＿＿＿＿
③＿＿＿＿＿＿＿＿　④＿＿＿＿＿＿＿＿

23. いじめる人は，どんな気持ちだと思いますか。
自由に書いてください。(4つまで)
①＿＿＿＿＿＿＿＿　②＿＿＿＿＿＿＿＿
③＿＿＿＿＿＿＿＿　④＿＿＿＿＿＿＿＿

①＿＿＿＿＿＿＿＿　②＿＿＿＿＿＿＿＿
③＿＿＿＿＿＿＿＿　④＿＿＿＿＿＿＿＿

24. なぜ，いじめられたのですか。自由に書いてください。(4つまで)
①＿＿＿＿＿＿＿＿　②＿＿＿＿＿＿＿＿
③＿＿＿＿＿＿＿＿　④＿＿＿＿＿＿＿＿

25. 両親はあなたが人からいじめられたことを知っていますか。
1．知っている　　2．知らない
→そのとき両親はどうしましたか
（　　）

26. 先生はあなたが人からいじめられたことを知っていますか。
1．知っている　　2．知らない
→そのとき先生はどうしましたか
（　　）